

調査部報告

Communicative Testingへの挑戦

(調査部長 重松 靖)

◇平成19年度実施状況

まず、中英研コミュニケーションテストが今年度も多くの先生方のご支援とご協力を得て実施することができたことに感謝申し上げます。その実施状況は以下の通りである。

2年 5,633名 (56校)

3年 4,920名 (50校)

総計 10,553名

延べ学校数 106校

学校数 71校

昨年度に比べ10校、881名増加することができた。この中には、昨年度に引き続き京都府の公立中学校1校、今年度新たに参加していただいた都内の私立中学校1校が含まれる。この数字は、昨年4月に出版された「コミュニカティブ・テストへの挑戦」(根岸雅史、東京都中学校英語教育研究会 編著 三省堂出版)の影響もあると思われる。

本書は、調査部が東京外国語大学教授根岸雅史先生の指導のもとこれまで進めてきたコミュニケーションを意識した問題をまとめ、多くの先生方に参考にしていただきたいと思い出版していただいたものである。この紙面を借りてその内容の一部を紹介させていただく。

◇ Communicative Testing への挑戦

筆記試験でコミュニケーション能力を測定しようとする事自体難しいことであるが、私たちは以下の点に留意しながらその困難さに「挑戦」している。

○リスニングのテスト

- ・いつ、誰が、どういう場面で何を聞くのかを明示する
- ・英語を聞いて何らかの言語以外の行動を遂行する等オーセンティックなタスクに心がける
- ・できるだけ自然なスクリプトにする

○リーディングのテスト

- ・いつ、誰が、どういう場面で何を読むのかを明示する
- ・看板、広告、ポスター、新聞、雑誌、本などオーセンティックなテキストを利用する

○ライティングのテスト

- ・誰に対して、何のために何を書くのかを明示する
- ・手紙、メール、日記、説明文など自然なテキストを利用する
- ・テストポイントにあった採点基準とする

○文法のテスト

- ・問題文は「どこで誰が誰に向かって話しているのか」など文脈を明示する
- ・言語の形式よりも意味を重視する
- ・コミュニケーションを実感できる問題にする

○語彙のテスト

- ・文脈を明示する
- ・文法上誤りはない、同じカテゴリーに属するなど、選択肢に留意する
- ・内容語だけでなく機能語もテストする

以上、5つの領域別に基本理念を記したが、根岸先生から繰り返し指導されたことは、場面を明示するとともに、テストの設計図とも言えるしっかりとしたスペック (test specifications) をもち、テストイングポイントに適した問題にする、ということである。

◇テスト参加のお願い

私たちの願いは、1校でも多くの学校に参加していただき、多くの助言をいただきながらよりよい問題づくりを進め、多くの先生方の参考にしていただくことである。ここで改めてコミュニケーションテストの特徴を紹介する。

①2・3年の9月までの履修範囲で、5領域(Listening/Vocabulary/Grammar/Reading/Writing)別に到達度を測り、参加校の平均点を示すことができる。

②領域別にテストイングポイントを明確にして問題を作成するので、観点別学習状況の評価に利用することができる。

Listening / Reading → [理解の能力]

Writing → [表現の能力]

Grammar / Vocabulary →

[言語についての知識・理解]

③結果は個人成績表で返還される。個人票には5領域別に各自の得点と自校の平均点が棒グラフで表示されているので、生徒にとっては自分の反省点が明確になる。また、教師にとっても指導の改善に役立つはずである。

④採点及び結果の分析は教育測定研究所にお願いしており、項目の基本統計量や因子分析等精度の高い分析により、常に問題の妥当性や質をチェックしており、良問であることを心がけている。尚、生徒の氏名

等個人情報提供していない。

費用は、生徒1人280円。最低限の必要経費のみに抑えているが、採点・成績処理等を委託している関係上御理解いただきたい。年度当初に教材費等としての予算化をお願いしたい。

◇終わりに

今年度、部長を花小金井南中廣田幸男校長先生から引き継いだ。慣れない仕事のため問題のスペリングミス等の不手際があったことをお詫び申し上げたい。

また、今年もメール等で多くの助言をいただいた東京外国語大学教授根岸雅史先生、熱のこもった議論を重ねながら長時間にわたって問題づくりをしてくれた調査部員に心から感謝申し上げます。

尚、自薦、他薦を問わず調査部に所属し一緒になって研究を進めていただける方は是非一報をいただきたい。